

人口問題研究所

研究資料第十五號

昭和三十三年五月一日

我が國人口増殖力の近い將來

——經濟安定本部統計研究會將來人口の再生  
産率について——

厚生省 人口問題研究所

我が國人口増殖力の近い將來

— 經濟安定本部統計研究會將來人口の再生産率について —

昭和二十一年八月發表の經濟安定本部統計研究會の推計將來人口は、昭和二十五年に至るまでの我が國人口の出生率を第一表の如く假定してゐる。又、昭和二十一年の死亡率を二五・九六%と推計してあり、又、第四回生命表の男女年令別死亡率(%)を推計基準人口に適用すれば、二〇・三三%の死亡率を得るので、昭和二十一年の男女年令別死亡率を第四回生命表の $\beta_x$ と同一の様相を示すものととして、これに比例させる意味において、第四回生命表の $\beta_x$ の $\frac{20.33}{25.96}$ 倍とし、それが昭和二十五年に第六回生命表の $\beta_x$ まで算術級数的に低下するものと假定して、これを第一推計とし、昭和二十五年に第四回生命表の $\beta_x$ まで同様にして低下するものと假定して、第二推計とした。(經濟安定本部統計研究會人口分科會「將來人口の推計に関する報告」参照)

以上の假定そのままでは、我が國人口の有機的な増殖力が昭和二十五年までには

第1表 将来人口の假定出生率

年次	第1推計	第2推計
昭三〇	2.10%	
昭三二	2.05	2.05
昭三四	2.00	2.00
昭三六	2.00	2.00
昭三八	2.00	2.00

どう変化すると見たかかはつきりわからぬ。そこでこの推計には、仮定された出生率と死亡率とによつて将来人口の再生産率を算定し、人口再生産の見地から、ここに假定した出生率と死亡率とが増殖力の變動上とつ意義を明らかたしようと思ふ。この稿の目的である。

平均して一人の女子が妊娠可能な年令(一五—四九才)を經過する間に、自分代つて次の世代に母となるべき女子の子供を何人産むかといふことを示す数値を總再生産率(総)といふ。女子の年令別の女兒出生率を加え合はせば、これを求めることができる。又、女子の年令別出生率(生)を合計して、おいて女子の子供が生まれる割合、即ち出生性比(カ)を乗しても、近似値が得られる。便宜上この稿では後の方法を用いた。即ち  $R = M_{15-49} \times C$  といふ。

この意味からいつて、その値が1を割れば、生れた女子の子供がただの一人も死亡しなくても現在の母はそれの生涯に次の世代に自分代つて母となる女子の子供を自分の数だけ生み得ないといふのであるから、人口に死亡率が良くなる

表之六 將來人口の總再生産率

年度	種別	第一推計	第二推計
大正	男女	× 2.431	
昭和	男女	× 2.301	
昭和	男女	× 2.117	
昭和	男子	1.102	1.102
昭和	女子	2.022	2.022
昭和	男子	1.120	1.122
昭和	女子	1.111	1.122
昭和	男子	1.111	1.122

※上掲諸表の人口推計は、昭和十五年の推計を基礎として算出されたものである。

ても、人口は一世代の間は減退することを意味している。つまり人口は絶対的縮小再生産をやるわけである。

上掲の「將來人口推計」の報告に、三七頁には昭和三一年、三二年及び三五年について、推計の値を掲げている。同様の方法で昭和三三年及び三四年の推計を計算し、これによつて人口を求めると第一表の如くである。

この結果をみると、人口推計で假定した昭和三二年以降における普通出生率減退の假定によつて三二年以降に低下を示している。最低の値は

昭和三五年の第一推計の一・五二二であつて、戦前の昭和一二年の二・一七に較べれば急激な減退である。しかし、これを第一表の諸外國の例と比較すると、なおまだ高率である。これは我が國の出生率が昭和三五年には相當著しく減退することゝを假定したものであるが、我が國の戦前出生率の水準が高く、しかも諸外國における出生減退が極めて著しいからである。

表 主要國最近の總再生産率

國名	年次	總再生産率
日本	1927	2.117
ポルトガル	1920-21	1.818
南阿達那	1921	1.882
伊太利	1920-21	1.825
カナダ	1924	1.841
オランダ	1922	1.826
スウェーデン	1927	1.820
アメリカ	1924	1.821
ドイツ	1924	1.668
オーストラリア	1924	1.667
デンマーク	1927	1.661
フランス	1928	1.610
ベルギー	1925	1.255
ルクセンブルグ	1921	0.914
イギリス	1927	2.113
スウェーデン	1927	1.847

これは出生女児が死さずいることを示す数値を純再生産率（ $R_0$ ）と

少しも考へていない。そこで出生した女の子供が生命表的確率で生存して行くことを加味した一世代間における人口の意味の再生産力を示す数値を純再生産率（ $R_0$ ）と

いう。そればかりでは出生と死亡とのバランスを一つの世代について物語る数値であるといふこともできる。又、 $R_0$ が1であるといふことは、平均して現在一人の女子は妊娠可能年齢を経過する間に、自分の代りに次の世代で母となる女の子供を、その死ぬことも考慮してなお自分と同数だけ生むことを示している。従つて、その人口は一世代の間、増加も減少もしないといふことをあらわしている。同様に、 $R_0$ が1を超えるときは人口は一世代の間、拡張再生産をやり、1を割れば縮小再生産をやり、といふことである。

（ $R_0$ はM<sub>0</sub>であるから）但し、 $R_0$ は $R_0$ の生存数） $R_0$ は $R_0$ を算定したとき

表 1 推計人口の妊産可能年齢女子推計生存数

年次	昭和21年	昭和22年	昭和23年	昭和24年	昭和25年
15	63,669	67,781	72,120	76,609	79,809
16	62,865	67,028	71,385	75,942	79,287
17	62,605	66,200	70,597	75,204	78,570
18	61,112	65,329	69,765	74,427	77,872
19	60,779	64,431	68,920	73,631	77,154
20	59,354	63,543	68,060	72,825	76,424
21	58,008	62,653	67,210	72,017	75,688
22	57,637	61,775	66,366	71,211	74,953
23	56,562	60,721	65,501	70,430	74,231
24	55,721	60,077	64,703	69,667	73,526
25	54,916	59,207	63,977	68,933	72,848
26	54,142	58,508	63,243	68,232	72,202
27	53,391	57,814	62,535	67,559	71,588
28	52,655	57,099	61,847	66,908	70,974
29	51,904	56,403	61,177	66,274	70,418
30	51,247	55,722	60,520	65,651	69,868
31	50,564	55,053	59,874	65,037	69,286
32	49,890	54,392	59,235	64,438	68,728
33	49,223	53,737	58,600	63,822	68,173
34	48,560	53,086	57,969	63,220	67,621
35	47,999	52,436	57,335	62,618	67,067
36	47,237	51,783	56,703	62,011	66,510
37	46,573	51,127	56,063	61,398	65,964
38	45,910	50,471	55,422	60,781	65,373
39	45,249	49,815	54,781	60,163	64,801
40	44,594	49,163	54,141	59,544	64,225
41	43,950	48,517	53,506	58,927	63,661
42	43,318	47,887	52,881	58,317	63,072
43	42,701	47,267	52,265	57,715	62,508
44	42,073	46,654	51,650	57,114	61,932
45	41,488	46,042	51,041	56,507	61,353
46	40,882	45,427	50,423	55,951	60,760
47	40,271	44,805	49,796	55,381	60,160
48	39,651	44,171	49,154	54,792	59,553
49	39,010	43,513	48,485	54,185	58,925

第五表 第2推計Kおとけに娠可能年令女子推計生存数

年次	昭和21年	昭和22年	昭和23年	昭和24年	昭和25年
18	63,147	65,338	67,084	68,821	72,706
16	62,865	64,577	66,323	68,111	72,224
17	62,005	63,741	65,517	67,301	71,351
15	61,102	62,853	64,668	66,510	70,608
19	60,179	61,965	63,797	65,669	69,800
20	59,252	61,044	62,933	64,820	68,960
14	58,334	60,171	62,058	63,985	68,125
22	57,437	59,292	61,201	63,157	67,301
23	56,552	58,438	60,370	62,352	66,478
24	55,721	57,617	59,570	61,576	65,724
25	54,716	56,827	58,793	60,831	64,980
26	54,142	56,071	58,054	60,110	64,263
27	53,327	55,335	57,331	59,415	63,565
28	52,558	54,617	56,644	58,732	62,882
29	51,944	53,917	55,960	58,066	62,215
30	51,247	53,233	55,291	57,414	61,562
31	50,564	52,562	54,634	56,773	60,919
32	49,890	51,900	53,985	56,140	60,280
33	49,320	51,245	53,342	55,512	59,650
34	48,560	50,593	52,702	54,886	59,074
35	47,877	49,942	52,063	54,260	58,395
36	47,231	49,287	51,421	53,632	57,763
37	46,573	48,634	50,777	53,001	57,128
38	45,910	47,977	50,133	52,357	56,491
39	45,207	47,326	49,489	51,727	55,854
40	44,574	46,677	48,851	51,110	55,231
41	43,750	46,031	48,223	50,492	54,581
42	43,012	45,385	47,594	49,885	53,902
43	42,701	44,803	46,977	49,290	53,250
44	42,032	44,205	46,352	48,702	52,784
45	41,684	43,577	45,704	48,111	52,191
46	40,882	42,976	45,212	47,528	51,594
47	40,271	42,388	44,601	46,933	50,990
48	39,651	41,771	43,977	46,327	50,375
49	39,010	41,132	43,343	45,702	49,738

第6表 将来人口の純再生産率

年次	種別	第1推計	第2推計
大正	14	* 1.084	
昭和	15	* 1.028	
昭和	16	* 1.040	
昭和	21	0.921	0.921
昭和	22	1.101	1.080
昭和	23	1.108	1.011
昭和	24	1.172	0.966
昭和	25	1.177	0.960

\* 事實

のこの中間に合うが故に新たにこの作うなければならない。とみるに、  

$$R_x = R_0 \cdot T_0^{x-1} \cdot P_x$$
 (但し  $P_x$  は  $x$  歳の生存率、 $R_0$  は  $T_0$  であるから  $R_0$  を算定する  
 には推計過程で用いた  $R_x$  の  $P_0$  から  $R_x$  まで相乗積を求めればよい。但し  $P_0$  につい  
 ては生存率の月別の変動が一様であると假定するわけにいかないから月別生存  
 率を適用して算定したものをを用いた。なお将来人口推計方法によれば、昭和二  
 五年の第一推計は第六回生命表の  $R_x$  を、第二推計は第四回生命表の  $R_x$  を用い  
 川はよいかからこの  $R_x$  をそのまゝ用いた。参考としてここに推計した  $R_x$  を表示す  
 川は第四表及び第五表の如くである。

上述の方法によつて算定した結果を既往におけ  
 る結果と比較表示すれば第六表の如くである。こ  
 の表を  $R_x$  の第一表と比較すると  $R_x$  が減退するに對し  
 て  $R_x$  は第一推計ではむしろ漸増し、第二推計にお  
 いてすらその減退が極めて軽微である。また  $R_x$  は  $R_x$   
 の減退に對して  $R_x$  の低下が更に著しく従つて  $R_x$  の  
 改善が顕著であるからである。以上の諸外國の例を二



第7表 主要國最近の純再生産率

國名	年次	純再生産率
日本	1937	1.020
ポルトガル	1930-31	1.038
南阿運邦	1938	1.000
伊太利	1935-37	1.001
オランダ	1937	1.117
カナダ	1938	1.074
ニュージーランド	1939	1.07
アタカカ	1937	0.995
ドイツ	1934	0.990
イギリス	1937	0.985
フランス	1937	0.982
オーストラリア	1938	0.97
デンマーク	1937	0.971
フランス	1937	0.97
ベルギー	1938	0.966
スイス	1937	0.979
イギリス	1937	0.982
スウェーデン	1937	0.961

いる。フランス、ノルウェー、スイス、イギリス反ハスウェーデンに較べると、  
 ちやや上位を示している状態である。

要するにこの推計人口において假定は戦前水準に較べて相当  
 急速度の出生率の減退を假定しているが、死亡率の低下が一層急激であつて、  
 そのため人口再生産率という見地から見れば人口増殖力の減退は戦前比すれば著  
 しいといつても、單に列國の水準に落ちつくといふ状態である。この意味で、我  
 が國の極めて近い將來における人口増殖力を支配するものは出生率よりもむしろ  
 死亡の如何である。このことは、近い將來における我が國人口増加の一つの重

獨行ると第七表の如くである。  
 この表においてみると、第一  
 推計の場合には十分に人口再生  
 産の能力を有し、第二推計の  
 場合においてさえも一を割る  
 ことはいくらでもなつておつ  
 てほつ列國の水準を維持して

要な特色があつて、人口問題も考へる場合に非常に大切なことである。

高 館

木

吸 枝

託 官